



いのちの日便り

2017. 9. 5

いのち推進
プロジェクト
No. 4

「志高く」

2学期の始業式に、校長先生より「いのちの日」の講話がありました。

…50年後みなさんは、どんな仕事をし、どんな生活をしているのでしょうか。そして、科学はどこまで発展するのでしょうか。人工知能AI や自動運転の自動車などはどのように進化するのでしょうか。

これからの未来は、みなさんが創り、より良い世の中にしなければなりません。誰かがしてくれるわけではなく、一人一人がより良い社会にすることを意識して生活するかが重要になってきます。うまくいかないことを人のせいにして、いつも不満だけ言ったりしているような生活は、だれも望んではいないと思います。私はみなさんには素敵な大人になってほしいし、幸せと実感できるような生活を送ってほしいと思っています…。これから朗読する「二十一世紀に生きる君たちへ」は、作家の司馬遼太郎さんが、1987年(昭和62年)に子どもたちのために書いた随筆です。21世紀を創り、21世紀を生きていく私たちへの願いであり祈りです。



「二十一世紀に生きる君たちへ」 司馬遼太郎著 (校長先生の朗読抜粋)

…君たちはいつの時代でもそうであったように、自己を確立せねばならない。…自分に厳しく、相手にはやさしく。…という自己を。そして、素直でかじこい自己を。21世紀においては、特にそのことが重要である。21世紀にあつては、科学と技術がもっと発達するだろう。科学・技術がこう水のように人間をのみこんでしまつてはならない。川の水を正しく流すように、君たちのしっかりした自己が科学と技術を支配し、よい方向に持って行ってほしいのである。右において、私は「自己」ということをしきりに言った。自己といっても、自己中心におちいつてはならない。

人間は、助け合つて生きているのである。私は、人という文字を見るとき、しばしば感動する。斜めの画(かく)がたがいに支え合つて、構成されているのである。そのことでも分かるように、人間は、社会をつくつて生きている。社会とは、支え合う仕組みということである。原始時代の社会は小さかつた。家族を中心とした社会だつた。それがしだいに大きな社会になり。今は、国家と世界という社会をつくり、たがいに助け合ひながら生きているのである。自然物としての人間は、決して孤立して生きられるようにはつづられていない。このため、助けあう、ということが、人間にとって、大きな道徳になっている。助け合うという気持ちや行動のもとのもとは、いたわりという感情である。他人の痛みを感じることに言つてもいい。やさしさと言いかえてもいい。「いたわり」「他人の痛みを感じること」「やさしさ」みな似たようなことばである。この三つの言葉は、もともと一つの根から出ているのである。根といつても、本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれを身につけねばならないのである。その訓練とは、簡単なことである。例えば、友達がころぶ。ああ痛かつたらうな、と感じる気持ちを、そのつど自分の中でつくりあげていきさえすればよい。この根つこの感情が、自己の中でしっかり根づいていけば、他民族へのいたわりという気持ちもわき出てくる。君たちさえ、そういう自己をつくつていけば、21世紀は人類が仲よしでくらす時代になるにちがいない。君たち。君たちはつねに晴れあがつた空のように、たかだかとした心を持たねばならない。同時に、ずっしりとたくましい足どりで、大地をふみしめつつ歩かねばならない。私は、君たちの心の中の最も美しいものを見続けながら、以上のことを書いた。書き終わつて、君たちの未来が、真夏の太陽のようにかがやいているように感じた。

～ 生徒のみなさんの感想より ～

- ☆ 話を聴いてみて、自分には厳しく、相手には優しくという文がとても印象に残って、その言葉を心の中にしまっておけば、苦しい時や悲しい時は乗り越えられる感じがしました。これからも、この言葉を大切にしていきたいと思います。

(1年4組 高橋 雛乃 さん)

- ☆ 未来に起こることなんて誰も予想できないし、わからないけれど、これから私たちが変えていくことはできるから、少しでも良い方向に物事を進めていけるように身近なことから頑張っていきたい。

(1年5組 秋葉 純音 さん)

- ☆ 校長先生のお話を聴いて、時間というものは有限なのだと再確認しました。だからこそ、自分の限りある時間を有効に使い、志を高くもちたいと思いました。中学校生活でも、学習面、部活動で高みを目指していきたい。

(2年4組 櫻井 孝人 さん)



- ☆ 「いたわり」「他人の痛みを感じること」「やさしさ」が僕たちには必要なのだとわかりました。人は助け合う生き物なので日頃から相手を思う気持ちを大切にしていきたいと思います。21世紀の担い手として、できることも考えて行動していきたいです。

(2年5組 佐藤 悠星 さん)

- ☆ 前回の目標である「努力」や「辛抱」という言葉に、さらに「志高く」を加えることで、今の自分に満足せず、自分に厳しく目標を持っていきたいと思いました。そのためにも、周りの人との関わり方を大切にしていきたいです。

(3年4組 五十嵐 安美 さん)



- ☆ 「志高く」をテーマとするお話でした。校長先生が紹介されていた司馬遼太郎さんの随筆を聴いて、私たちは今から生きる世の中をたくましく生き抜くことが、今まで基本の生活を築いてくれた人達にとって大切なのだと感じました。そして、生活を見直すきっかけとなるお話でした。

(3年5組 板垣 咲希 さん)